

松江工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	日本史 2	
科目基礎情報						
科目番号	0047		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	人文科学科・数理科学科		対象学年	3		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	テキスト: 小風秀雄他10名, 新選日本史B, 東京書籍 外園豊基, 最新日本史図表, 第一学習社 東京書籍編集部, 日本史Bワークノート, 東京書籍, 他にプリントを配付する場合もある。また, レプリカなども利用する。					
担当教員	鳥谷 智文					
到達目標						
(1) 日本の歴史における基礎的史実について理解できる。 (2) 日本の歴史における歴史の変遷について理解できる。 (3) 日本の歴史から抽出される特徴について理解できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1	日本の歴史における基礎的史実について正しく理解できる。	日本の歴史における基礎的史実について理解できる。	日本の歴史における基礎的史実について理解できない。			
評価項目2	日本の歴史における歴史の変遷について正しく理解できる。	日本の歴史における歴史の変遷について理解できる。	日本の歴史における歴史の変遷について理解できない。			
評価項目3	日本の歴史から抽出される特徴について正しく理解できる。	日本の歴史から抽出される特徴について理解できる。	日本の歴史から抽出される特徴について理解できない。			
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 G2						
教育方法等						
概要	日本という国土に身をおいている私達にとって, 生活に深く関わっているのは先人から脈々と受け継がれている人間社会である。私達が豊かな生活をおくるためには, 先人が培ってきた社会のシステムを知り, 多角的な事象分析を行うことが不可欠である。 本授業では, 日本の歴史の変遷を多様な角度から分析し, 人間社会のシステムを学ぶと同時に, 多角的な視野を育成することを目的とする。特に, 自国の歴史を学ぶ過程において, 多角的な視野を国際的理解への視野へ結びつけていくことに留意する。 本授業では, まず各内容について概略を説明し, その後, ワークノートによる演習を行い, 付随して解説を加える形態をとる。また, 土器などのレプリカを利用し, できるだけイメージをつくりやすいように授業を展開する。 主とする授業内容としては, 次のような範囲を予定している。 1. 第一次・第二次世界大戦と日本 2. 現代の世界と日本					
授業の進め方・方法	学習目標の達成度の評価: ・試験 80% ・ノート提出 (問題集の書き込み状況) 20% 50%以上を合格とする。					
注意点	予習: 教科書や図表をよく読み, ワークノートをやっておく。 授業中: 問題の解答をし, 解説するのでも聞き逃さないこと。ノートへの書き込みをすること。 復習: 授業中おこなった範囲をもう一度見直すこと。 再評価試験は実施する。追認試験は実施しない。					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	近代の日本 3 日清戦争 (pp.192-194)	当該内容を理解できる。		
		2週	近代の日本 4 日露戦争 (pp.195-197)	当該内容を理解できる。		
		3週	近代の日本 5 工業化と資本主義の発達 (pp.198-201)	当該内容を理解できる。		
		4週	近代の日本 6 第一次世界大戦と日本 (pp.204-207)	当該内容を理解できる。		
		5週	近代の日本 7 金融恐慌、満州事変 (pp.216-221)	当該内容を理解できる。		
		6週	近代の日本 8 日中戦争、第二次世界大戦 (pp.222-225)	当該内容を理解できる。		
		7週	近代の日本 9 太平洋戦争 (pp.226-233)	当該内容を理解できる。		
		8週	中間試験	第1週～第7週の内容の理解度を試す。		
	4thQ	9週	現代の日本 1 冷戦の開始と経済復興 (pp.244-247)	当該内容を理解できる。		
		10週	現代の日本 2 国際社会の復帰と対米協調 (pp.248-253)	当該内容を理解できる。		
		11週	現代の日本 3 経済の高度成長 (pp.256-259)	当該内容を理解できる。		
		12週	現代の日本 4 1970年代の国際社会と日本 (pp.260-261)	当該内容を理解できる。		
		13週	現代の日本 5 ソ連解体と揺れ動く日本の政治 (pp.268-269)	当該内容を理解できる。		

		14週	現代の日本6 停滞する日本経済と成長するアジア (pp.271-272)	当該内容を理解できる。
		15週	期末試験	第9週～第14週の内容の理解度を試す。
		16週	総括 第15回までの復習	

#### モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。	3	
			現代社会の考察	第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。	3	
			現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3		

#### 評価割合

	試験	ノート提出	合計
総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	80	20	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0